

リハビリに用いる器具が、Quality of Life 等の心理的変数に与える影響について

1 実施概要

実施手続：対象者を 2 群（ジョイフム群：歩行用具+ジョイフム、通常群：歩行用具）ランダムに割り当てた。

その後 Pre アンケート実施後、1～4 週間リハビリを行い、期間終了後 Post アンケートを実施。

分析対象者：箕面市立介護老人保健施設に入所または通所しており、意思疎通が困難な利用者を除く 74 名
(M=84.1 歳, SD=7.59 歳, 55-100 歳, 男性 29 名、女性 45 名)

自立群と、認知症における日常生活自立度 I～II b を非自立群として実施する。

調査項目：SF-36v2(福原他, 2004) より①活力 VT、②社会生活機能 SF、③日常役割機能(精神)RE、
④心の健康 MH の 4 ドメイン。

※SF36v2：健康関連 QOL を測定するための科学的で信頼性・妥当性が検証され、広く用いられている尺度

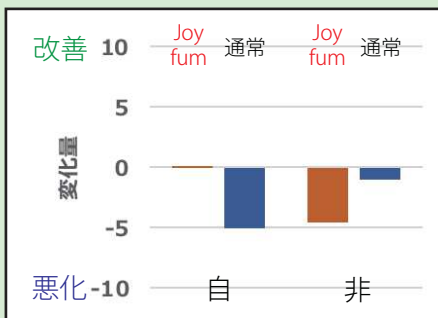
2 ジョイフム群と通常群による使用前から使用後にかけての SF-36v2 各スコアの推移

SF-36 の①活力②社会生活機能③日常生活機能(精神)に関しては有意な主効果、交互作用は認められなかったが、④心の健康に関して、ジョイフム群(自立群)では 5% 水準で有意な交互作用が認められた。

さらにジョイフム群(自立群)が維持しているのに対して、通常群(自立・非自立群共に)では維持もしくは低下している状況が示された。

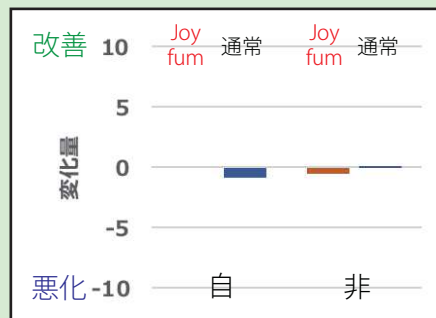
→ ジョイフムを利用したリハビリを行った場合、通常よりも心の健康(MH)が改善され、QOLの向上が確認された。

VT: 活力



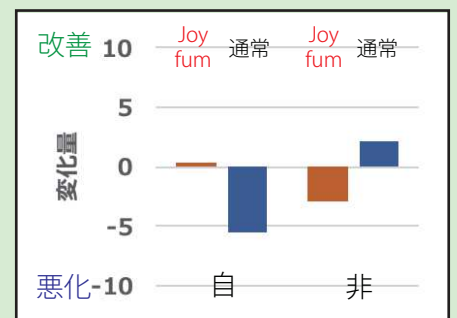
群の主効果、時期の主効果、交互作用いずれも有意ではなかった。

SF: 社会生活機能



群の主効果、時期の主効果、交互作用いずれも有意ではなかった。

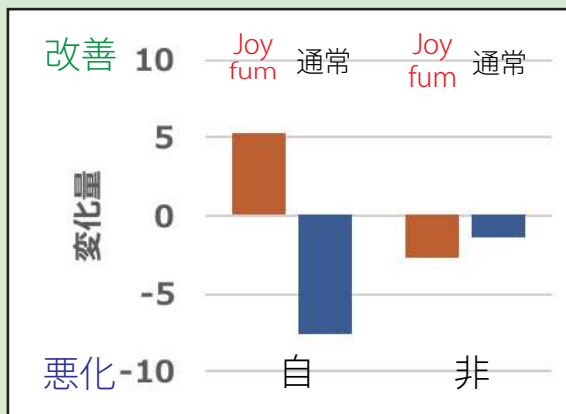
RE: 日常役割機能(精神)



群の主効果、時期の主効果、交互作用いずれも有意ではなかった。

MH: 心の健康

自立している高齢者にとって、心の健康の維持・増進に効果が認められた。



※表中表記[自]は自立群、[非]は認知症における日常生活自立度 I～II b を [非](非自立群)を示す。